

ブドウ「クイーンニーナ」の簡易な葉面積推定法の開発

利用対象：研究・普及指導組織

○1枝当たりの葉面積を新梢長や葉枚数を用いて推定する方法を開発しました。この方法は短梢剪定栽培のブドウ「クイーンニーナ」で活用できます。生育ステージごとの葉面積を簡易に推定でき、得られたデータは着果量や灌水量の判断に利用できます。

(特徴)

- ①新梢長を計測することで満開前や満開後の1枝当たりの本葉の葉面積を推定できます。
- ②新梢長に加え副梢葉の枚数を計測することで、各節の副梢葉を2枚までで管理した場合の葉面積を推定できます。

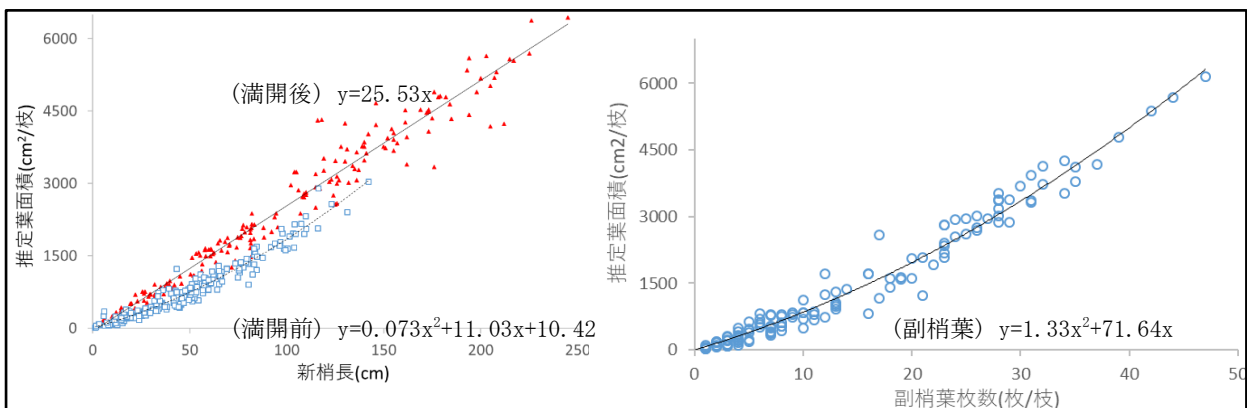


図1 新梢長と本葉の推定葉面積の関係

図2 副梢葉枚数と副梢葉面積の関係 (n=128)

- ：満開前 (n=210、調査日(平均)：満開前 13.6日)、
▲：満開後 (n=189、調査日(平均)：満開後 62.1日)

(利用に当たっての留意点)

○副梢葉2枚で管理した場合の副梢葉を含めた1枝当たりの葉面積は、図1の新梢長から推定できる本葉の葉面積と図2の副梢葉枚数から推定できる副梢葉の葉面積を合算することで推定できます。

○他品種への適応性は検討していません。

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 伊賀農業研究課 安川大二郎 電話 0595-37-0211
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)